

れいわ ねんど  
令和5年度

がっこうじゅんかいこうえんじぎょう  
学校巡回公演事業

よろず きょう げん  
萬 狂 言

のうがくこうえん  
＜能楽公演＞



じゅんかいこうえんじぎょう  
「学校巡回公演事業」

しょうがっこう ちゅうがっこうなど ぶん かげいじゅつだんたい じつえんげいじゅつ じゅんかいこうえん おこな ことども しつ たか ぶん かげいじゅつ  
小学校・中学校等において文化芸術団体による実演芸術の巡回公演を行い、子供たちが質の高い文化芸術  
かんしやう たいげん きかい かくほ ことども ゆた そうぞうりよく そうぞうりよく しこうりよく  
を鑑賞・体験する機会を確保するとともに、子供たちの豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケーション  
のうりよく やしな しょうらい げいじゅつか かんきやくそう いくせい すぐ ぶん かげいじゅつ そうぞう し もくてき  
能力などを養い、将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造に資することを目的としています。

ことども じつえんしどうまた かんしやうしどう おこな じつえん ことども さんか  
ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演においては、子供たちが参加  
くふう おこな  
できる工夫を行います。



舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）  
独立行政法人日本芸術文化振興会

\*\*\*番組\*\*\*

解説

狂言「柿山伏」

登場人物 山伏

柿の木の持ち主

狂言「附子」

登場人物 太郎冠者

次郎冠者

主人

質問コーナー



「柿山伏（かきやまぶし）」

山での修行を終えた山伏（特別な力をもったお坊さん）は、帰る途中でのどがかわいてしまい、近くに柿の木があるのを見つけると、木に登り柿の実を盗んで食べてしまいます。そこへ柿の木の持ち主が現れたため、山伏は見つからないように急いで木のかげにかくれますが、大きな体がかくれるはずがありません。柿の木の持ち主はそんな山伏をからかってみることにして……。

「附子（ぶす）」

主人に留守番をたのまれた召使いの太郎冠者と次郎冠者はじめはおとなしくしていましたが、猛毒でそちらから吹く風に当たっただけでも死んでしまうから近づくな、と言って主人が置いた「附子」が気になって仕方ありません。二人で協力してふたを開けてみると、中に入っていたのは黒いかたまり。引きとめる次郎冠者の声も聞かずに、太郎冠者が一口食べてみると……。

◆狂言の豆知識◆ 小道具について

ほとんど登場人物の台詞や動きだけでお話がすすむ狂言ですが、いくつかの小道具が使われることもあります。



●扇(おうぎ)

狂言で使う小道具の中でも、色々なものに見立てて使われるのが扇です。あおいだり、のこぎりとして木を切ったり、刀などの武器にもなります。



●葛桶(かずらおけ)

狂言ではよく使われる道具で、黒い桶にふたが付いています。そのままイスのように腰をかけた後、ふたを盃に見立ててお酒を飲む道具としても使います。

よるぎょうげん  
萬狂言

団体紹介

よるぎょうげん きょうげんかたいずみりゅう のむらまんぞうけいちもん よ な やく ねん れきし でんどう う つぎ  
萬狂言とは、狂言方和泉流 野村万蔵家一門の呼び名で、約300年の歴史と伝統を受け継ぎ、  
その昔は北陸の加賀前田藩のお抱えでもありました。

げんざい とうしゅ だいひょう きゅうせいのむらまんぞう ちゅうしん とうきょう ほくりく かんさい きゅうしゅう きよてん こうえん  
現在の当主(代表のこと) 九世野村万蔵を中心に、東京・北陸・関西・九州を拠点として、公演  
活動や狂言の稽古場の開設、全国の小中学校での鑑賞会やワークショップなどを行っています。

知ってますか? ~10月1日は「国際音楽の日」です~

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることにしました。

日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。